

第2学年1組 国語科学習指導案

平成20年6月13日（金）第4校時
授業者 教諭

1 単元名 同じぶぶんをもつかん字

2 単元の目標

- ・漢字には同じ部分を持つ漢字があることに気づき、漢字に興味を持つことができる。
(関心・意欲・態度)
- ・同じ部分を持つ漢字に注意して読んだり、書いたりすることができる。(言語)
- ・漢字の書き順には決まりごとがあることを知り、書き順に注意して書くことができる。
(書く)

3 単元について

最初は楽しかった漢字の学習であるが、画数と漢字の数が増えるに従って細部の判別が難しくなり、次第に覚えることに抵抗を感じるようになってきた。しかし、漢字には同じ部分があるということに気づけば、画数が多く複雑に見える漢字でも実はそれほど多くない種類の基本的な漢字の組み合わせで作られていることがわかる。その基本的な形を覚え、組み合わせ方によっていろいろな漢字が作れることを理解すれば、漢字を覚えることもスムーズになる。さらに意味や成り立ちにも触れると漢字学習に興味を持って取り組むことができるだろう。

本教材は、同じ部分がある漢字を見つけたり、書き順に決まりがあることを知ったりする学習で構成されている。学習意欲を高め、積極的に漢字学習に向かわせることができるようにしていきたい。

漢字を学習する教材としては1年の「にているかん字」、本教材、3年の「へんとつくり」4年の「漢字の組み立て」などにつながっていく。今後も続く漢字学習への足がかりとしたい。

4 児童について

漢字の学習については意欲的に取り組み、字形に気をつけながら書こうとする児童が多い。新出漢字を学習する時は、習っていない読み方を考えたり、漢字を使った言葉を探したりと積極的である。1年生の時から廊下に新出漢字を掲示し、朝は漢字をなぞってから教室に入るようにしてきた。日常的に目に触れるので、漢字も定着しやすいように感じる。しかし、その反面「めんどくさい。」「おぼえられない。」などの理由で苦手意識を持つ児童もいる。中には書き順が全く違っていたり、「多い」を「大い」と書いたりする児童がいるなど漢字の正しい書き方や使い方はまだまだ不十分といえるだろう。

児童の漢字に対する意欲を大切にしながら、正しい書き方や使い方を身につけられるような手立てを考えていきたい。

5 指導について

児童が意欲的に漢字学習に取り組めるように漢字クイズを提示したり、似ている部分がある漢字さがしをペアで行ったりしていきたい。

部会テーマ「楽しくいきいきと表現できる子どもの育成」を受けて、相手の考えをしっかりと聞き、お互いの思いを伝え合うことができる学級をめざしている。学びの基盤でもある「聞きとる力」をつけさせるために国語などの授業中だけでなく、日々の中で「聞く姿勢」を指導しているところである。ここでは、伝え合う意欲を高めるために、集めた漢字を友達と発表しあうようにする。

また、今年度から始まった白川文字学の学習を受けて、福井出身の漢字学者、白川静博士について触れたい。ここではたくさんの児童が見つかるであろう「口」を取り上げる。漢字をただ覚えるのではなく、漢字には人々の生活やものの考え方などの様子が表れているということ、意味や成り立ちがあるということを知らせていく。また、からくり箱を利用して児童たちの関心をさらに高めたいと思う。

| 時 | 学習内容 | ねらい | 関 | 調 | 書 | 読 | 言 | 評価規準 |
|-----------|-----------------------|--|---|---|---|---|---|---|
| 1 (本時) | これまでに学習した漢字から同じ部分を探す。 | 漢字には同じ部分があることに気づき、意味や成り立ちに興味を持つ。 友達に分かりやすい話し方で説明することができる。 | ◎ | ○ | | | | (関心・意欲・態度) 同じ部分をもつ漢字に興味を持ち、意欲的に探そうとしている。 (話す・聞く) 聞き手に分かりやすく説明している。 |

| | | | | | |
|---|----------------------|----------------------------|---|---|------------------------------------|
| 2 | 同じ部分がある漢字を使って短い文を作る。 | 同じ部分に注意して読んだり書いたりすることができる。 | ○ | ◎ | (書く) 同じ部分に注意して読んだり書いたりすることができる。 |
| 3 | 漢字の書き順のきまりを知る。 | 漢字の書き順に注意して書くことができる。 | ○ | ◎ | (書く) 漢字を正しい書き順で書いている。 |

7 本時の目標

同じ部分がある漢字に興味を持ち、同じ部分がある漢字を集めることができる。

8 準備物

ワークシート、カード、既習漢字の一覧表、からくりボックス

9 本時の学習過程

| 学 習 活 動 | 支援（・）と評価（☆） |
|--|--|
| <p>○「木」を使った漢字を探し、発表する。 ・木、林、森、村、本、休 など</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>同じ部分がある漢字をあつめよう</p> </div> <p>○同じ部分がある漢字をペアで探し、ワークシートに書く。 ・話と読 ・口、知、名、 ・数、女 ・大、犬 など</p> <p>○見つけた漢字をカードに書き、発表する。 ・日、百、早、曜 ・休、体 ・赤、土 ・絵、線、細、糸 ・空、左 など</p> <p>○「口」を使った漢字の成り立ちを知る。 ・「サイ」について知る。 人が神様に願いごとをするために書いた文を入れる器(入れもの)の形を と表す。 白川博士は古代の人々のくらしから口が を表していることを発見した。</p> <p>○次時の予告をする。</p> | <p>・同じ部分を色分けし、視覚的にも分かりやすくし、漢字の学習に意欲を持てるようにする。</p> <p>・漢字のどこか一部分がぴったり同じということ、二画以上同じであることを確認する。 ・既習の漢字一覧表を見て、なるべくたくさん見つけることができるようにする。 ☆同じ部分のある漢字を意欲的に集めようとしているか。 (ワークシート・観察・関・意・態) ・友達に知らせたい漢字を選び、カードに書いて、黒板に掲示させる。 ・どこが同じ部分なのかきちんと説明できるように助言する。 ☆友達に分かりやすく話そうとしているか。 (発表・観察・・・話す・聞く)</p> <p>・児童が多く見つけることが予想される「口」を取り上げる。</p> <p>・漢字を正しく書けるようになるために、意味と成り立ちについて知らせる。 ・福井出身の白川静博士を紹介する。 ・からくりボックスを使い、漢字のものの字を知らせる。</p> <p>・今日の学習を振り返り、次は同じ部分がある漢字を使って短い文を作ることを知らせる。</p> |